

## 権田金属

# 品質・納期対応を強化

## 開発室設置、技術データ化

太物黄銅棒、銅ブスパーなどを生産する権田金属工業（相模原市中央区、権田源太郎社長）は、品質や納期への対応を強化する。4月に品質と生産性の向上を目的とした「開発室」を設置し、まずは

鑄造工程と圧延工程のプロジェクトを立ち上げた。職人技に頼って

いる製造技術のデータ化などにも取り組んでいく。

品質と納期はメーカーに求められる最も重要な要素だ。同社はこれまで継続的に改善の取り組みを行ってきたが、「生産技術改善のための人材がそろってきた」（権田社長）ことから、新たに専門部署

を設けることにした。専任は少人数だが、各工程の人員とチームでプロジェクトに取り組む。

伸銅品は基幹設備の寿命が長く、安定した品質を確保するためにそれらを使いこなす経験が必要だ。権田社長は「これからの時代は経験だけでなく生産

技術を数値化していくことも必要。いずれは

IoT化などにもつなげたい」と話す。

新型コロナウイルスの感染拡大による景気への影響が深刻化する中、同社も今月から需要の減少傾向がうかがえる。こうした状況だからこそ、需要回復期に向けてものづくりの基盤強化を図る。